

## 岡たかこ

発行：岡たかこ事務所

〒758-0025 萩市土原113-1

TEL 0838-21-7720/FAX 0838-21-7724

E-mail t.oka.suppo@gmail.com



令和6年11月25日、県健康福祉部長室で県に要望書提出（左から岡、都志見病院・山本院長、県健康福祉部・国吉部長）

# 北浦地域唯一の脳外科継続確定

## 山口大学医学部、 都志見病院への脳外科医派遣を継続

2月5日、山口市で山口県医療対策協議会が開催されました。

山口県が設置しているこの協議会は県内の医療関係者で構成され、県全体の医療行政に関する様々な課題などが議論され、政策面に生かされます。

この検討課題のひとつに、山口大学医学部が設けている「地域枠」の対象病院の認定があり、新たに都志見病院脳外科については特例として地域枠の対象になることが決まり、令和7年以降に存続が危ぶまれていた北浦地域唯一の都志見病院脳外科が継続できることとなりました。

(裏面に続く)

「地域枠」の対象病院は原則として公立、公的な病院で、民間病院である都志見病院は対象外。また、この「地域枠」とは山口大学医学部医学科入学生のうち、「卒業後は山口県内の医療機関に従事し、過疎地域などの医療に貢献し、山口県医師修学資金を受給する」ことを条件として入学し、医師免許を取得された方で、卒業後は修学期間の1.5倍の期間、地域枠の対象として認定された病院に勤務することが義務づけられ、この義務期間の勤務を終えれば県からの修学資金の返済が免除される制度です。

都志見病院には、北浦地域で唯一、山口大学医学部から地域枠となっている脳外科医が派遣されていました。これは同病院が萩地域の医療で中心的な役割を果たしていることや、萩市が中核病院を形成し、医療体制を整備する計画への配慮でもあったと推察されます。

しかし、派遣できる医師も限られる中で、令和7年度以降は、地域枠の対象ではない都志見病院への派遣は難しくなるのではないかと指摘がされ、そうなれば都志見病院脳外科も休止せざるをえない状況となっていました。

脳外科は、脳卒中（くも膜下出血、脳梗塞、脳出血など）や脳腫瘍（良性脳腫瘍、悪性脳腫瘍）、機能的脳神経疾患（てんかん、パーキンソン病、顔面痙攣、三叉神経痛など）、頭部外傷、水頭症、小児脳神経疾患など、高齢者や小児、緊急時への対応を要する診療科です。

これが萩市内からなくなってしまうのは、それだけでなく不安な萩市の医療への懸念は一段と強くなってしまいます。

そして、本来であれば、こういう課題には萩市が積極

的に動くべきなのですが、「地域枠」の制度を所管する山口県健康福祉部にも全く相談もされないままでした。

萩市民病院の心臓カテーテル対応が365日24時間体制から、平日の日中のみに限定されたことについて「今までと大騒ぎするほど変わったという認識は持っていない」と言われ、中核病院の整備にも具体的な動きがない今の市政の下では、萩市の医療は心許ない限りです。しかし、事は阿武町まで含めた萩地域全体の住民のいのちに関わることです。

都志見病院の山本達人院長から相談を受けた私は、県健康福祉部の国吉宏和部長に実情を説明。国吉部長は萩市副市長として4年前まで萩市に勤務。人材の地産地消を掲げる市政の方針の下で、国吉部長をはじめとした県からの派遣職員は全て帰任させられましたが、萩市の実情もよく知られるだけに真摯な対応をいただきました。

昨年11月25日、山本院長と私は都志見病院脳外科の地域枠の特例認定と、脳外科医の派遣継続を求めた要望書を県に提出。国吉部長は村岡嗣政知事にも協議。そして、県は山口大学医学部や県内医療関係者と調整され、2月5日に開催された県医療対策協議会で、都志見病院脳外科の存続が可能になる決定がされました。

都志見病院脳外科の存続は決まりました。まずは皆様にご報告したいと思います。そして、今回の活動を通じて、より強く感じたのは萩市の医療体制の不安は残されたままということです。今の萩市政で大丈夫か、その思いを改めて強くしています。

岡生子

令和6年11月25日

山口県知事 村岡 嗣 政 様

医療法人医誠会都志見病院  
院長 山本 達人



#### 地域枠卒業医師の派遣の特例について（要望）

山口県におかれましては、平素より、地域医療の推進に御尽力いただき、感謝申し上げます。

さて、ご高承のとおり、萩保健医療圏は公立・公的な中核的医療機関がなく、本来、このような中核的医療機関が担う救急医療や災害医療などの役割の多くを民間病院である当院において担い、人的確保や財政的負担など病院運営上の課題が大きい中で、高い使命感を持って萩保健医療圏における中心的な役割を果たしていると自負しています。

地域医療体制の課題を解決するために、令和3年度に萩市において当院と萩市民病院の統合を核とした中核病院形成に向けた方針が示され、当院としても大きな期待をしていました。ただ、ここ3年あまりの間はこの取り組みは遅々として進まず、その間に、当院にとっても、また、地域医療にとっても困難さを増しています。

市の取り組みの遅さは大変残念ではありますが、それであっても、地域の医療を守るために、当院としては病院統合によって中核病院が形成されることを期待し、引き続き、高い使命感を持って責任を果たしていく所存です。

そして、この責務を果たす上で直面する課題は当院における脳神経外科医の確保です。

萩保健医療圏を含む北浦地域は、県内においても高齢化が特に進み、脳卒中による死亡率が高く、脳神経外科へのニーズの高い地域で、現在、当院において北浦地域における唯一の常勤脳神経外科医を確保してこの分野での医療に対応しています。

また、この常勤脳神経外科医は、山口大学医学部附属病院からの医師派遣により確保されています。

しかしながら、民間病院である当院は、山口県の地域枠卒業医師の派遣医療機関の対象外であることから、当院における勤務実績は義務年限として算定されないため、令和7年度以降、山口大学からの脳神経外科医の派遣が見込めない状況です。

高齢化が特に進み、脳卒中による死亡率が高い北浦地域において、脳神経外科医の確保は何よりも重要であり、長年の診療実績がある当院への常勤医師の配置は、地域医療を維持するためにも不可欠と考えますので、県におかれましては、これらの事情をお汲み取りいただき、地域枠卒業医師の派遣医療機関の特例として当院を認めていただき、山口大学からの当院への脳神経外科医の派遣の継続ができるよう、特段の御配慮をお願い申し上げます。

県への要望書